

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難		
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計				
農食環境学群	循環農学類	夜・通信	74	85	202	361	13			
	食と健康学類 (管理栄養士コース除く)	夜・通信			83	242	13			
	食と健康学類 (管理栄養士コース)	夜・通信			53	212	13			
	環境共生学類	夜・通信			90	249	13			
獣医学群	獣医学類	夜・通信					107	181	19	
	獣医保健看護学類	夜・通信					37	111	13	
(備考)										

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p><a href="https://www.rakuno.ac.jp/wp-content/themes/SHZ001/pdf/2019_subjectlist.pdf">https://www.rakuno.ac.jp/wp-content/themes/SHZ001/pdf/2019_subjectlist.pdf</a>            大学HPの「情報公開」&gt;「授業科目に関すること」&gt;「科目ごとの目標等」&gt;「実務経験のある教員等による授業科目一覧」をクリック。            各科目のシラバスは、シラバス照会画面から以下により確認できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学HPのTOP画面で、「情報公開」→「授業科目に関すること」の「科目ごとの目標等」→「シラバス」をクリック</li> <li>(2) ログイン画面にある「シラバス照会」をクリック</li> <li>(3) 「Menu」の「シラバス照会」をクリック</li> <li>(4) 開講開始年度を「2019」と指定し、キーワードに「実務経験」と入力、または科目名称欄に「実務経験のある教員等による授業科目一覧」にある科目名称を直接入力して、検索する。</li> </ol>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	なし
(困難である理由)	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人酪農学園のHPにて公表 <a href="https://gakuen.rakuno.org/member">https://gakuen.rakuno.org/member</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	現職：尾崎英雄法律事務所 所長	2019.7.1～ 2022.6.30	法務
非常勤	現職：株式会社エクサネット HAL 代表取締役会長	2019.7.1～ 2022.6.30	I C T
非常勤	現職：株式会社町村農場代 表取締役	2019.7.1～ 2022.6.30	経営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>作成過程</p> <p>シラバスにおいて、講義概要、到達目標、各回の授業内容、成績評価の方法、基準、準備学習の内容や目安となる時間についての指示、教科書・参考文献、履修条件、15回の授業の進め方を明確に示すようにシラバス記載要領を作成しています。記載要領については、教務委員会において内容を確認するとともに、各学類からの委員が学類会議等で説明をしています。</p> <p>さらに、シラバス作成方法に関するFD研修会において、その記載内容について詳細な説明会を実施しています。また、公表前に、第三者によるシラバスチェックを実施し、記載要領の条件に満たさないシラバスについては、修正を指示しています。</p> <p>以上の取り組みにより、一定の内容を記載しているシラバスをポータルにおいて公表しています。</p> <p>作成・公表時期</p> <p>1月上旬～2月上旬 シラバス作成依頼</p> <p>2月上旬～3月上旬 第三者によるシラバスチェック</p> <p>3月中旬 シラバス修正完了</p> <p>4月上旬 HP等で公表</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://unipa-ap.rakuno.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp">https://unipa-ap.rakuno.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目における学習成果の評価については、シラバスにおいて「評価項目」および「その割合」、「成績評価の基準」について明記することとしています。とりわけ、厳格かつ適正に評価するために、複数の評価項目がある場合は「総合的に評価する」ではなく、各評価項目の割合(%)を明示することとしています。</p> <p>履修の認定および成績評価、授業の出席状況について、ポータルを利用し、厳格に教育センター教務課において管理をしています。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、履修規程において以下のように厳格な基準を設定しています。</p> <p>合格＝S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、</p> <p>不合格＝D（59点以下および試験欠席）、×（受験不可）</p> <p>また、GPA制度を導入し、教育指導において活用しており、指標設定については履修ガイドで公表しています。</p> <p>全履修科目の成績の平均値を表したGPA（Grade Point Average/グレード・ポイント・アベレージの略）は、各履修科目のグレード・ポイントに科目の単位数を乗じた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で除したものであり、次の計算式によって算出します。</p> $\text{GPA} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得たグレード・ポイント})] \text{の総和}}{\text{履修科目単位数の総和}}$ <p>なお、成績の分布状況については、学生への公表には至っていないが、内部資料として作成し、基盤教育運営委員会など各種教務関係の委員会において教職員間の教育指導に活用しています。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定に関する方針については、学則および履修規程、学位規程を定めており、公表方法として履修ガイドおよびホームページに記載しています。適切な実施のために、詳細な資料を基に、学類会議および教授会において審議しており、適切に実施しています。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>
財産目録	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.rakuno.ac.jp/education/reserch/action-plan.html">https://www.rakuno.ac.jp/education/reserch/action-plan.html</a> <a href="https://www.rakuno.ac.jp/outline/effort/jihee2.html">https://www.rakuno.ac.jp/outline/effort/jihee2.html</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.rakuno.ac.jp/outline/effort/jihee2.html">https://www.rakuno.ac.jp/outline/effort/jihee2.html</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 農食環境学群
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html">https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html</a> )
(概要) 農食環境学群の教育理念は、建学の精神である「三愛精神に基づく健土健民」の実現のための教育・研究を行うことである。「健土健民」は、文字通り「健やかな土に健やかな民が育まれる」ことを大学の使命の根底に置くことを高らかに宣言した本学の基本理念である。 この基本理念の上に、農食環境学群では、人は環境－植物－動物－食に支えられた存在であることを教育・研究展開の基軸に置き、健康な「土－草－牛－乳－人」のつながりを、また、健康な「自然－植物(作物)－動物(家畜)－食－人」のつながりを、さらに、健康な「環境－植物－動物－物質・エネルギー－人」のつながりを保つことをその基本理念の具現化として位置付けている。 農食環境学群の 3 学類は、それぞれこのつながりの一部を担っており、3 学類が協力し、また、各学類における自然科学と人文社会科学が融合することにより、さらには、それぞれのフィールドと連携を強めることにより、「三愛精神に基づく健土健民」の世界を実現しようとするものである。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html">https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html</a> )
(概要) 所定の単位を取得し、以下に掲げる能力を身につけた学生に、農学分野・食品学分野、環境学分野の学位を授与する。 ・全学共通の基盤教育プログラムにより、本学の建学の精神を理解するとともに、基礎的な学問を習得する能力 ・フィールドにおける実践的な教育により現場感覚を体得し、物事の本質を見極めるとともに今後の課題を解決する能力 ・基盤教育を基礎としながら、各学類の専門的知識と技術を、専門ゼミナールでの討論や卒業論文をとおして習得し、さらに、自然科学と人文社会科学が融合した総合的思考力・判断力を習得することにより、社会に貢献できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html">https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html</a> )
(概要) 1・2 年次においては、全学共通の基盤教育プログラムにより、本学の歴史や使命を学ぶとともに、農業・酪農・畜産の実体験を積み、さらに専門教育科目を学ぶための基礎的素養ならびに真理を追究する大学人としての教養を身につける。専門教育科目では、3 学類のそれぞれにおいて、専門知

識の習得とともに実践技術を体得できるカリキュラムを編成する。

〔循環農学類〕

専門基礎科目から、循環を基本とした農学・畜産学の体系的学習のために提示した履修モデルを参考に、専門コースごとの基礎となる科目を選択する。また、学外農場実習を通して現実社会に向き合う能力を養うことを奨励する。専門教育科目には、農に関する専門的な方法論や知識・技術を体系的に学び、習得するために専門共通科目、コース専攻教育科目および学類教育科目を設置している。

〔食と健康学類〕

専門教育科目では、フードシステムの各領域での専門的な科目を配置し、食と健康に係る専門的知識の習得を目指す。また、座学のみならず実験や学内外での実習の履修によって、より実際的な技術の習得や実体験を積み重ね、実社会で活躍できる素養をもった人材を育成できるカリキュラムを編成している。

〔環境共生学類〕

専門基礎科目の中で、地球の生命圏と環境の調和の本質を理解し、その調和が人類の文明活動によってどのように損なわれつつあるかを科学的に理解する思考力を養成する。専門教育科目では、人間が野生動物、生命環境と共生していくための知恵と術を追求していく実践的な努力についてコミュニケーション能力を高めつつ学ぶために、様々な社会、フィールドでの現場教育を実験・実習科目の中で展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0102.html>）

（概要）

農食環境学群が求める学生は、本学の教育理念・教育目標に共鳴し、農・食・環境学への主体的な学習意欲・問題意識があり、現場で身体を動かして学ぶことを厭わない人物である。

〔循環農学類〕

循環農学類は農業を取り巻く現実社会に対応するため、文理融合した学類であり、循環型社会の実現に向け、実践的活動ができる人材の養成を目的とする。自然科学のみならず人文社会科学も含めた総合的な学習を行うので、農業・畜産業に関する知識や技術を活かして人類社会に貢献したいという意欲を持つ人物を求める。

〔食と健康学類〕

食と健康学類は、本学の基本理念である実学教育をとおして、食の生産、加工・製造、流通ならびに健康に関する幅広い知識と技術を習得するとともに、食と健康に関する総合的な判断力を培い、社会に貢献できる人材を養成することを教育の目的とする。自然科学のみならず、社会科学をも含めた総合的な学習を行うので、高等学校でのこれらの科目の基礎的知識を習得し、何事にも興味をもって取り組む意欲にあふれた人物を求める。

〔環境共生学類〕

地球環境の中で長い歳月をかけて形成されてきた様々な循環システム

(大気、物質、エネルギー)と、その循環システムが育ててきた人間と野生動物をはじめとする生命圏の調和ある共生を目的とする。人類がその文明生活の中でもたらしたその調和のほころびを修復し、人間が野生動物、そして生命環境と共生していく英知を学び、国際社会、地域社会の中で環境問題を解決する意欲のある人材を求める。

学部等名 獣医学群

教育研究上の目的 (公表方法 :

<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>)

(概要)

獣医学群は建学の精神 (三愛精神・健土健民・実学教育) に基づき、獣医学と獣医保健看護学とその関連科学の教育を通して生命を尊ぶ豊かな人間性を育み、人類と動物の福祉及び自然環境との調和とその共存に貢献する人材を育てる。すなわち専門知識・技術及び総合的な判断力を習得し、国際的視野に立って人と動物の健康保持、環境保全ならびに食料の安定供給に寄与する人材を養成することである。また、高等教育機関として地域社会における知識・文化の中核として、さらに将来に向けた地域活性化の拠点としての役割を担う人材の教育を目的とする。

獣医学群教育はライフサイエンスに根ざした実践を目指した応用科学であり、医学、農学、生物学など広範囲な学問分野を含む。獣医学群の教育は獣医学類と獣医保健看護学類が協力して、様々な分野で求められている広範囲な専門知識と技術を取得し、チーム獣医療を実践できる人材の育成を教育の基本方針とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 :

<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>)

(概要)

獣医学群は大学設立の理念に基づき社会的ニーズの高い分野で活躍できる人材、獣医師ならびに動物看護師としてチーム獣医療を担う質の高い実践能力を備えた「高度職業人」としての人材ならびにそれぞれの分野や地域においてリーダーとして活躍できる獣医療従事者を卒業させる。

〔獣医学類〕

以下の能力を身につけ、豊かな知性と人間性を持ち、「人と動物を取り巻く環境の相互的な関連の重要性」を獣医師として社会に発信できる人材に対し学位を授与する。

- ・ 獣医師の社会的責務を果たすための使命感、倫理観、責任感、コミュニケーション力を修得する能力
- ・ 学際的な視点を持ち、物事の本質を見通す洞察力、先見力、創造力、応用力を習得する能力
- ・ 科学的な根拠を基礎とし、世界的な視野で人間社会の健全な発展に寄与でき、さまざまな情報を統合して、的確な判断を行い、必要な行動ができる能力

〔獣医保健看護学類〕

豊かな人間性と動物に対する愛情を持ち、高度な知識とチーム獣医療を担う高い実践能力を備えた動物看護師および動物関連分野、教育分野において動物と人間が共存できる社会の創出に貢献できる人材に対し学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>）

（概要）

1年次では、建学の精神を礎に豊かな知性と人間性を獲得するために、全学共通カリキュラムの基盤教育を実施する。また、獣医師、動物看護師として必要な倫理観や健全な生命観、使命感を養う。2年次では2学類で共通の専門基礎教育を展開することで、獣医療の基礎となる知識を共有すると共に多角的に物事を捉え学際的な視点を養う。専門教育科目、専修教育科目ではそれぞれの学類での専門知識・技術及び総合的な判断力を涵養すると共に自ら課題を探究し、その課題解決に対して幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を涵養する。

〔獣医学類〕

新たな知の創造につながる獣医学専門教育を積み上げ、問題を解決する能力を養い、指導的な役割を果たしうる人材を育成する。研究や討論を実践的に積み上げる学生参加型の授業および実習を充実し、教養と豊かな人間性、国際的感覚、強固な責任感と高い倫理性を取得する専修教育を実施する。

〔獣医保健看護学類〕

専門基礎科目では、動物の形態機能および感染症を理解するために生体機能学、病原体に関わる基礎知識を習得する。専門科目では、臨床を含む獣医療の関連科目ならびに公衆衛生学を学ぶとともに動物看護に関する専門的な知識・技術を体系的に習得し、学内外での実習で実践することでそれらを深化させる。最終年次には、専修教育として行動学、栄養学、理学療法について深く学習し、専門性のある人材を育成できるカリキュラムを展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/educationpolicy/p0101/p0103.html>）

（概要）

獣医学群が求める人材は建学の理念を理解し、獣医学群の教育目的を遂行できる人物である。

〔獣医学類〕

獣医学類は、国際通用性を基本とした獣医学及びその関連分野における高度な知識と技術を修得し、迫り来る諸問題を解決できる能力を具備する獣医師の育成を目的とする。社会に対する幅広い視野を有し、地域や地球レベルでの人と動物との調和に深い関心を持ち、日々進歩する最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習意欲を持つ人材を求める。

〔獣医保健看護学類〕

獣医保健看護学類は、高いレベルで動物看護師の知識・技術を教授し、広

く基礎生命科学分野、公衆衛生分野および動物医療分野で活躍できる人材の養成を目的とする。それ故、大学設立の基本理念・教育目標を理解し獣医保健看護学とその関連分野で能動的に学習を行うことができ、動物・人間とふれあうことの実践を通じて生命を尊ぶ豊かな感性を育み、動物の良き理解者として人類と動物の福祉に貢献しようとする目的意識をもつ人材を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織 の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
農食環境学群	—	53人	33人	8人	5人	6人	105人
獣医学群	—	27人	21人	8人	6人	8人	70人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			81人				81人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="http://souran.rakuno.ac.jp/search/index.html">http://souran.rakuno.ac.jp/search/index.html</a>					
FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>酪農学園大学FD委員会を設置し、授業アンケート実施、FD研修会の開催、教育環境改善を目的とする教職員と学生の意見交流活動など、規程に基づく全学的FD活動に取り組んでいます。</p> <p>〔授業アンケート〕 原則すべての科目（履修者20名以下、専門ゼミナールなど除外科目はある）を対象に全学統一の授業評価アンケートを実施しています。学生の授業に対する意識や取り組み方を調べ、その結果を教員へフィードバックし、改善点について担当者より報告させ、授業改善を目的とします。また、学生が授業選択の参考になるように実施結果を開示しており、教員には「検討事項調査票」の提出を依頼している。FD委員会にて集計し、授業改善のポイントをFD委員より教授会で報告を行っています。</p> <p>〔FD研修会の開催〕 FD委員会の中で担当を決めて、年に2回程実施しています。また、北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画、京都で開催されるFDフォーラムなどの学外の研修会にもFD委員を中心に参加しています。</p> <p>〔学生と教員との対話集会〕 教育環境改善を目的に教職員と学生の意見交流の機会として、「学生と教員との対話集会」を年1回（毎年12月頃）開催しており、学長・学群長・教育センター長・FD委員長等が出席、学生と直接意見交換を行っています。</p> <p>〔投書箱〕 学内に設けられた6つのポストに、学生が教育に関することから学生生活に係ることまで意見を投書できるようになっています。投書された内容は、FD委員長から学群長や担当部署に伝えられ、掲示板等を活用して学生に回答しています。2018年度より投書箱のメール版も開設しています。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
獣医学部	-	-	-	-	2人	-	-	-
農食環境学群	520人	555人	106.7%	2,110人	2,357人	111.7%	0人	7人
獣医学群	180人	199人	110.6%	930人	1,093人	117.5%	0人	0人
合計	700人	754人	107.7%	3,040人	3,452人	113.6%	0人	7人

(備考) 獣医学部は学生募集停止、修業年限を超えて在籍する学生のみ。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
農食環境学群	544人 (100%)	8人 (1.5%)	469人 (86.2%)	67人 (12.3%)
獣医学群	179人 (100%)	5人 (2.8%)	153人 (85.5%)	21人 (11.7%)
獣医学部	2人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	2人 (100%)
合計	725人 (100%)	13人 (1.8%)	622人 (85.8%)	90人 (12.4%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスにおいて、講義概要、到達目標、各回の授業内容、成績評価の方法、基準、準備学習の内容や目安となる時間についての指示、教科書・参考文献、履修条件、15回の授業の進め方を明確に示すようにシラバス記載要領を作成しています。</p> <p>記載要領については、教務委員会において内容を確認するとともに、各学類からの委員が、学類会議等で説明をしています。さらに、シラバス作成方法に関するFD研修会において、その記載内容について詳細な説明会を実施しています。</p> <p>また、公表前に、第三者によるシラバスチェックを実施し、記載要領の条件に満たさないシラバスについては、修正を指示している。以上の取り組みにより、一定の内容を記載しているシラバスをポータルにおいて公表しています。</p>
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各授業科目における学習成果の評価については、シラバスで「評価項目」および「その割合」、「成績評価の基準」について明記することとしています。</p> <p>とりわけ厳格かつ適正に評価するために、複数の評価項目がある場合は「総合的に評価する」ではなく、各評価項目の割合(%)を明示することとしています。履修の認定、成績評価および授業の出席状況については、ポータルを利用し、教育センター教務課において厳格に管理をしています。</p> <p>卒業認定に関する方針については、学則および履修規程、学位規程を定め、履修ガイドおよびホームページで公表しており、適切な実施のために詳細な資料に基づき学類会議および教授会において卒業認定を行っています。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
農食環境学群	循環農学類	124 単位	有 無	48 単位
	食と健康学類	124 単位	有 無	48 単位
	環境共生学類	124 単位	有 無	48 単位
獣医学群	獣医学類	207 単位	有 無	48 単位
	獣医保健看護学類	124 単位	有 無	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		<p>公表方法：農食環境学群  <a href="https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/19092218/e8aa3f2152269b10e65bee075ded64e.pdf">https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/19092218/e8aa3f2152269b10e65bee075ded64e.pdf</a></p> <p>獣医学群  <a href="https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/19092220/d2d4e4d1cc19a45eb75cae7e3f056e7.pdf">https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/19092220/d2d4e4d1cc19a45eb75cae7e3f056e7.pdf</a></p>		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法： 授業評価アンケート結果 <a href="https://www.rakuno.ac.jp/discrose/evaluation.html">https://www.rakuno.ac.jp/discrose/evaluation.html</a>  2016～2018 年度酪農学園大学における学生の学習成果及び 学び・学力に関するアンケート <a href="https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/09160043/18f008366faf39c5c0e0f90e26a71e67.pdf">https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/www.rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/09160043/18f008366faf39c5c0e0f90e26a71e67.pdf</a>
----------------------------	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/access.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記 載事項)	合計
農食環境 学群	循環農学類	(1年次) 940,000円	200,000円	160,000円	実学充実費	(1年次) 1,300,000円
	食と健康学類	(2年次以降) 1,040,000円				(2年次以降) 1,200,000円
	環境共生学類					
獣医学群	獣医学類	(1年次) 940,000円	300,000円	(1年次) 160,000円	実学充実費	(1年次) 1,400,000円
		(2年次以降) 2,040,000円		(2年次以降) 240,000円		(2年次以降) 2,280,000円
	獣医保健看護 学類	(1年次) 940,000円	200,000円	(1年次) 160,000円	実学充実費	(1年次) 1,300,000円
		(2年次以降) 1,080,000円		(2年次以降) 220,000円		(2年次以降) 1,300,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) [学生担当教員(アドバイザー制度、研究室指導教員体制)] 学生一人ひとりへのきめ細かな支援を行うため、入学時より学生ごとに「学生担当教員」を配置し、学生のあらゆる活動をサポートしています。学生担当教員は、学生のニーズを理解し、学生の資質や可能性を最大限に引き出すよう務めており、修学上や学生生活における問題や悩み・進路等について積極的な相談できる指導体制をとっています。学生担当教員は学年によりアドバイザーと研究室指導教員に区分されます。

- ・アドバイザーは、入学時から専門ゼミ移行時まで担当。
- ・専門ゼミ移行後は所属の研究室指導教員（獣医学類はユニット指導教員）が担当。

学類	1年	2年	3年	4年	5・6年
循環農学類	アドバイザー		研究室指導教員		
食と健康学類	アドバイザー		研究室指導教員		
環境共生学類	アドバイザー		研究室指導教員		
獣医学類	アドバイザー			ユニット指導教員	
獣医保健看護学類	アドバイザー		研究室指導教員		

〔オフィスアワー〕

教員が学生からの質問や相談を受けるために研究室に在室している時間帯を設定しています。出張や会議で不在の場合を除き、オフィスアワーとして定められた時間は教員が研究室に在室して学生の質問や相談に応じています。授業に関する質問、学校生活、進路等、先生に相談したい場合に積極的な活用が可能となっています。なお、非常勤講師については、授業の前後に教室や非常勤講師室で相談の受け付けが可能です。

〔学習支援室〕

自発的な学びを尊重し、初年次教育の基礎となる英語、数学を中心に、3名の専門の先生が常駐し、リメディアル教育の支援及び相談を希望する学生に対応しています。

- ・学習に関わる相談、大学生活に関わる相談、悩みごとの相談など人生経験の豊富なスタッフが相談に応じています。
- ・大学での講義は、高校までの授業内容が理解されていることを前提に行われますが、入学前の学習環境により学力に個人差があり、学習支援室では苦手な分野の克服を含めそれを補うことができ、その後の大学の講義がより理解できるようになります。
- ・資格取得や就職試験を突破するために必要な基礎学力の支援策として、年間に4回SPI対策講座を実施しています。

〔教職センター〕

教職を目指す学生に対して学習指導・支援を行っているほか、教員採用試験に関する情報の提供、特別講義や研修の企画・実施を通して、教員を目指す学生たちの学びを全面的にバックアップしています。

また、担当教員による教職に関する授業に加え、学生による模擬授業の実施や教員採用試験を目指した自習等のための教職多目的演習室、ならびに理科教育の指導・教育・訓練のための観察・実験に対応できるよう、教職理科実習室を設置しています。さらに、教職課程室には事務職員が常駐して各種教科書、教育関連図書や資料等の閲覧・貸出に対応しており、教職を目指す学生たちの学習ニーズにきめ細やかに対応しています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

キャリアセンターでは、学生が高い目的意識を持ちながら、人生観や職業観を養い、的確な進路や職業の選択が果たされるよう学生の希望に沿ったキャリア支援を行っています。3年次（獣医学類5年次）に個人面談を全ての学生と行うことで、一人ひとりにより細やかな信頼関係が確立できるよう努めています。具体的には、インターンシップの紹介や資格・検定試験の支援、就職活動全般のノウハウを学ぶ「キャリア支援アワー」をはじめ、学内業界セミナー、公務員試験対策講座、面接対策講座、ビジネスマナー講座等、各種講座を開催しているほか、内定を得ている4年生から情報を得る報告会を行うなど多角的にサポートしています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談体制を以下のとおり整備・実施しています。

〔医務室〕

保健師2名、看護師1名で、日常の応急処理・健康相談に対応しており、毎週木曜日の昼休みには学校医相談日を設けています。精神的な問題を抱えている学生については、学生相談室や支援に必要な部署と連携して支援を行っています。

毎年度4月には全学生を対象として定期健康診断を実施し、所見のあった学生については健康相談や受診勧奨を行っています。特に、新入生に対しては、入学前に「健康管理カード」を提出させ入学後の体調管理に役立てています。

〔学生相談室〕

学生相談室には日常的に2名の臨床心理士が常駐し、学生の心身の健康に関する個別カウンセリング及びグループカウンセリングを実施しています。また、月に一度発達障害を専門とする小児精神科医が学生の相談にあたり、医療機関等への所見作成を含めたメンタルケアに携わっています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/discrose.html>